

# かつては牛舎を管理 市川さん家族（野方町）

## 日進の木・キンモクセイ物語



↑毎月の例会で生育の様子や状態を



↑ホテルに扮してゲンジボタルの生態

秋らしい爽やかな陽気の11月、野方町の天白川の堤防道路を歩くと、一本の大きなキンモクセイと出会った。まるで愛知万博のマスケットキヤラ、モリゾーのような形が愛らしい。

入り口を抜けるとミカンの木もあり、車庫でいすに座る市川貞子さん（84）が元気に出迎えてくれた。「それほど自慢できるような木じゃないけど、ちよつと前までいい香りがしたよ」

木は日進が市制施行した平成6年10月に配られた記念樹で、樹齢22年になり、知らない間に大きく育ったという。貞子さんは息子夫婦と孫と4人暮らし。10年前まで、シルバークセンターで草刈り作業をしていたが、足が不自由になってやめた。家の敷地は広く、剪定や草刈りは同センターに依頼している。

かつては牛舎があった。60歳までは、30頭の牛の世話や農作業に追われる毎日だった。「そりゃあ、頭が痛くても腹が痛くてもやらないかんでしょ。農繁期は寝とる暇はなかったよ」と懐かしむ。畑や田んぼの管理は、息子の透さん（56）が受け継いだ。

昭和29年、みよし市打越町から野方町に嫁いだ。22歳だった。「周りはやぶだらけで道といえばイタチが通る程度の幅。堤防に道もなくて、リアカーを引くのは大変だった」

今の楽しみは、天白区の施設のデイサービスに毎週通うこと。「運動や話が楽しい。寝たきりにはなりたくないでね」と笑う。嫁の栄さん（52）は「母は働き者なので怠けてもらえません。おしゃべりが好きで施設では人気者。皆さんが待っていてくれるそうありがたい」と話す。

が、土方さんらの思いは「市全体をホテルの舞う環境にしたい」。会の発足1年後に仲間入りし現在は自宅で300匹の幼虫を育てている初井英夫さん（79）は「初めのころは餌の確保に苦労した。育て始めて5年たった2004年に初めて自分のホ

孫の和聖さん（19）は来年1月にめでたく成人式を迎える。キンモクセイを眺めながら貞子さんは願った。「孫が学校を出て立派な人間に育ってほしい」（広）



↑22年前に植えた市制施行の記念樹(右)を眺める市川さん

## 笑顔 そして、未来へ

にしん体操ひろめ隊に参加して、健康増進に努めています。にしん体操スポットにも毎週通い、その甲斐もあってか心身ともに調子よく、今年の9月に尾三消防本部で開催された心肺生老競技会で優勝しました。皆さんもにしん体操で健康になりましょう。



岡田 万里子さん(香久山)

親子でいつも岩崎台・香久山福祉会館のキラキラルーム（親子教室）に参加しています。にしん体操も頑張ってるって覚えて、夏休みには「にしん体操8:45」にも参加しました。いつも笑顔で絶やさない家族でいます！



宇佐美 久美さん(岩崎台) 和玖ちゃん 碧翔ちゃん

タルが飛んだ。これはうれしかった」と振り返り、名古屋市天白区で「天白・川辺の楽校」の代表を務める村瀬劭さん（82）は「12年半、一度も途切れず毎月会合を開いている。女性も多く和やかでうらやましい」と会の特長を話してくれた。